

株 主 通 信

第37期 中間報告書

平成23年7月1日▶平成23年12月31日

I-O DATA DEVICE, INC.



I-O DATA

証券コード：6916

営業の概況

■ 当上半期の営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の深刻期を脱し、回復に向かい始めましたが、その後の世界経済の減速や円高の進行、タイの洪水被害等から停滞し、先行き不透明な状況が続いております。

当企業グループを取りまくパソコンおよびデジタル家電市場におきましては、スマートフォン分野に需要の盛り上がりが見られましたが、地上デジタル放送への完全移行（東北3県を除く）後のTV関連需要の失速による低迷に、タイの洪水被害による電子部品の不足が重なり、年末商戦も不振に終わりました。

このような状況のもと、当企業グループは、次なる成長事業の確立を急務と捉え、ホームネットワークやスマートフォン、データ保全分野を中心に事業の拡大強化に努めましたが、パソコン周辺分野における増設需要の低迷と、主力のストレージ部門において、TV関連需要の失速とタイの洪水被害によるハードディスクドライブの供給不足による影響が重なり、売上高は前年同期を大きく下回りました。

一方、利益面につきましては、周辺機器部門等での付加価値製品の増収や、ハードディスクドライブの需給の引き締めによる価格競争の軟化、取引内容の精査と原価低減の取り組みが奏功し、減収による影響を補完しました。また、当期では前年同期において減益要因となった原材料市況の大幅な下落も生じることなく推移していることから、営業利益以下の全ての項目で前年同期を上回りました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は、198億39百万円（前年同期比14.9%減）、営業利益は6億79百万円（前年同期は4億91百万円の営業損失）、経常利益は8億19百万円（前年同期は8億80百万円の経常損失）、四半期純利益は7億63百万円（前年同期は7億88百万円の四半期純損失）となりました。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

ここに、当企業グループの第37期上半期（平成23年7月1日から平成23年12月31日まで）の営業の概況等についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

代表取締役社長 相野 昭雄

■ 部門別営業の概況

■増設メモリーボード部門

メモリーボードは、パソコンの初期搭載容量の増加による増設需要の減少基調にD R A M価格の低下も重なり、売上高は前年同期を下回りました。フラッシュ製品では、U S Bメモリーを中心に次世代規格U S B 3.0対応や法人向けセキュリティ分野、汎用モデルの展開を強化しましたが、前年同期との比較において低価格化が進み、売上高は前年同期を下回りました。この結果、増設メモリーボード部門の売上高は14億3百万円（前年同期比36.6%減）となりました。

■ストレージ部門

主力の外付け型ハードディスクを中心に、T Vやレコーダーの新規モデルへの増設対応を逐次進めましたが、T V関連需要の失速とタイの洪水被害によるハードディスクドライブの供給不足による影響から、売上高は前年同期を下回る75億26百万円（前年同期比31.2%減）となりました。

■液晶部門

解像度の低い映像も美しく再現する「超解像技術」を搭載した新シリーズの展開に注力しましたが、前年同期においてエコポイントや移行需要を捕らえ伸張した地上デジタルチューナー搭載モニターの減収が響き、売上高は前年同期を下回る29億63百万円（前年同期比27.5%減）となりました。

■周辺機器部門

マルチメディア関連製品、デジタル家電関連製品については、スマートフォンで手軽にワンセグ放送を視聴できる無線ワンセグチューナー「S E G C L I P m o b i l e（セグクリップ モバイル）」の新シリーズのほか、録画機能を搭載したT V増設用地上波デジタルチューナー新モデルの投入により、売上高は前年同期を上回りました。また、ネットワーク製品については、N A Sを中

心に法人向けにはデータバックアップ用途、個人向けには家庭内A V機器間のコンテンツ共有やスマートフォンによる外出先からの利用等、各用途それぞれに対してラインナップと提案活動を強化しました。また、スマートフォンやモバイル関連需要に対応すべく、無線L A N製品、W i M A X関連製品のラインナップを拡充し、売上高は前年同期を上回りました。この結果、周辺機器部門の売上高は49億44百万円（前年同期比13.7%増）となりました。

■特注製品部門

案件の端境期にあった前年同期に対し、当第2四半期連結累計期間では、デジタル家電周辺機器や通信事業者向け等のO E M製品の販売が好調に推移し、売上高は19億88百万円（前年同期比96.3%増）となりました。

■その他の部門

自社製品のラインナップを補完する電子部品ならびに他社商品の販売が好調に推移し、その他の部門の売上高は10億12百万円（前年同期比40.5%増）となりました。

■ 通期の見通し

当企業グループを取りまく経営環境は、世界経済の減速や長引く円高の影響により、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。また、T V関連需要の低迷とハードディスクドライブの供給回復には時間を要する見通しにあり、この厳しい状況は当面継続することが予想されますことから、売上高は前回予想を下回る見込みであります。一方、利益面においては第2四半期連結累計期間の業績進捗を勘案し、営業利益および経常利益、そして当期純利益は当初の予想を上回る見通しから、平成24年6月期の通期連結業績は、売上高400億円、営業利益8億円、経常利益9億円、当期純利益8億30百万円を見込んでおります。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 (平成22年12月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成23年12月31日)	前連結 会計年度末 (平成23年6月30日)
資産の部			
流動資産	24,701	21,566	19,561
現金及び預金	6,298	5,261	6,147
受取手形及び売掛金	9,008	7,694	7,288
たな卸資産	8,089	7,809	5,459
その他	1,396	822	687
貸倒引当金	△ 92	△ 21	△ 20
固定資産	6,441	6,386	6,470
有形固定資産	4,089	3,960	4,027
土地	2,880	2,880	2,880
その他	1,209	1,079	1,147
無形固定資産	182	168	177
投資その他の資産	2,169	2,257	2,265
① 資産合計	31,142	27,952	26,032
負債の部			
流動負債	13,277	9,171	7,859
支払手形及び買掛金	9,372	6,341	5,835
短期借入金	1,500	1,000	—
未払法人税等	48	72	62
ポイント引当金	49	22	56
賞与引当金	—	135	—
その他	2,307	1,599	1,904
固定負債	1,155	907	1,018
退職給付引当金	256	—	—
役員退職慰労引当金	126	110	126
リサイクル費用引当金	415	436	426
製品保証引当金	315	233	339
その他	41	126	126
② 負債合計	14,433	10,079	8,877
純資産の部			
株主資本	17,689	18,469	17,772
資本金	3,588	3,588	3,588
資本剰余金	4,228	4,228	4,228
利益剰余金	10,710	11,594	10,897
自己株式	△ 837	△ 941	△ 941
その他の包括利益累計額	△ 1,127	△ 738	△ 762
少数株主持分	147	141	143
③ 純資産合計	16,709	17,873	17,154
負債及び純資産合計	31,142	27,952	26,032

※百万円未満切り捨て

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)	前連結 会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
売上高	23,320	19,839	45,344
売上原価	20,340	15,835	38,701
売上総利益	2,980	4,003	6,642
販売費及び一般管理費	3,471	3,324	6,624
営業利益(△損失)	△ 491	679	18
営業外収益	109	206	217
営業外費用	499	66	664
経常利益(△損失)	△ 880	819	△ 429
特別利益	—	—	133
特別損失	22	81	24
税金等調整前四半期 (当期)純利益(△純損失)	△ 902	737	△ 320
法人税、住民税及び事業税	47	67	79
法人税等調整額	△ 160	△ 97	205
少数株主損益調整前 四半期(当期)純利益(△純損失)	△ 789	767	△ 605
少数株主利益(△損失)	△ 1	3	△ 3
四半期(当期)純利益 (△純損失)	△ 788	763	△ 601

※百万円未満切り捨て

① 資産

総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて19億20百万円増加し、279億52百万円となりました。これは、現金及び預金が8億85百万円減少したものの、たな卸資産が23億50百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が4億5百万円増加したこと等によるものであります。

② 負債

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて12億1百万円増加し、100億79百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が5億6百万円増加したこと、当四半期末の仕入債務等の決済資金として短期借入金が増加したこと等によるものであります。

③ 純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて7億18百万円増加し、178億73百万円となりました。これは、四半期純利益7億63百万円の計上及び配当金の支払等によるものであります。

株式情報

(平成23年12月31日現在)

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)	前連結 会計年度 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
④ 営業活動による キャッシュ・フロー	△ 1,203	△ 1,643	417
⑤ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 245	△ 79	△ 404
⑥ 財務活動による キャッシュ・フロー	1,337	932	△ 266
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 13	△ 94	△ 23
現金及び現金同等物の 増減額	△ 125	△ 885	△ 276
現金及び現金同等物の 期首残高	6,424	6,147	6,424
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	6,298	5,261	6,147

※百万円未満切り捨て

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は16億43百万円(前年同四半期は12億3百万円の使用)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益7億37百万円の計上及び仕入債務の増加5億36百万円による資金増加と、売上債権の増加4億24百万円及びたな卸資産の増加23億58百万円による資金減少等によるものであります。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は79百万円(前年同四半期は2億45百万円の使用)となりました。これは、有形及び無形固定資産の取得による支出等によるものであります。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果獲得した資金は9億32百万円(前年同四半期は13億37百万円の獲得)となりました。これは、短期借入金金の増加10億円と、配当金の支払67百万円等によるものであります。

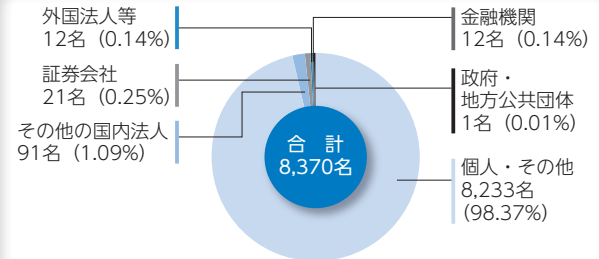
株式の状況

発行可能株式総数	41,000,000株
発行済株式の総数	14,839,349株
1単元の株式の数	100株
株主数	8,370名

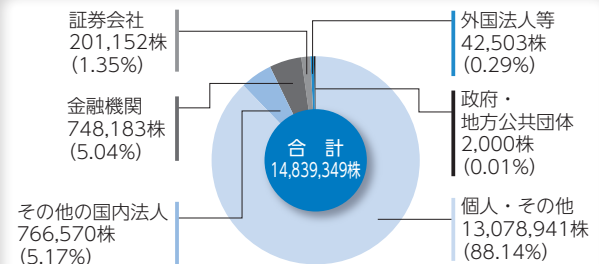
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
細野昭雄	4,514,643	30.42
株式会社アイ・オー・データ機器	1,440,062	9.70
細野幸江	763,780	5.15
株式会社北國銀行	306,662	2.07
有限会社トレント	269,675	1.82
三菱化学メディア株式会社	200,000	1.35
株式会社みずほ銀行	153,331	1.03

所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況

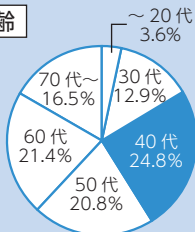


株主様アンケート集計結果

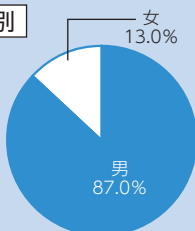
第36期報告書にてお願いいたしました「株主様アンケート」の集計結果について、ご報告申し上げます。
ご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

ご回答いただいた株主様のプロフィール

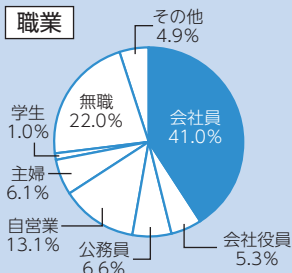
年齢



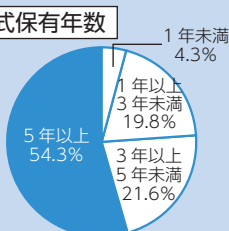
性別



職業



株式保有年数

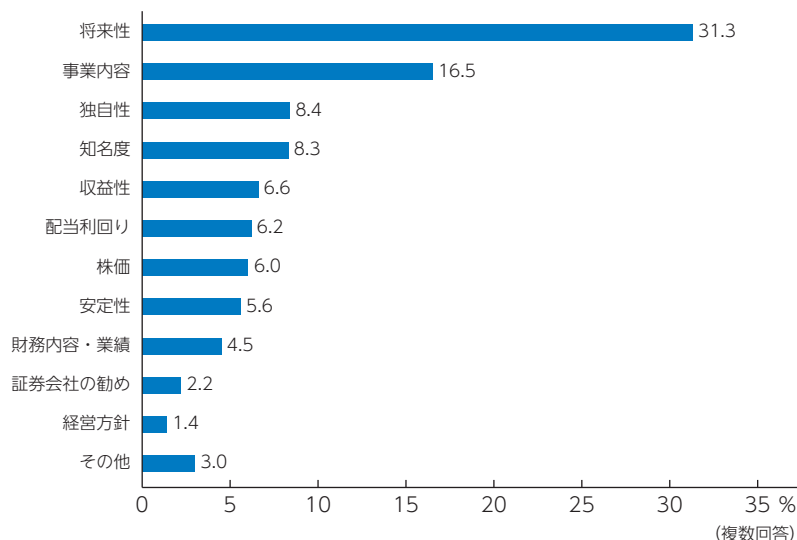


■アンケート実施期間：平成23年9月29日～平成23年10月31日

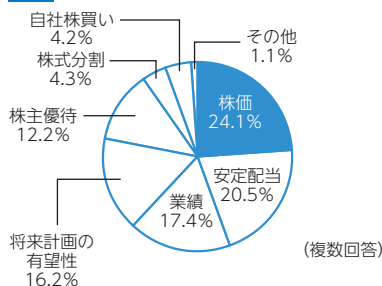
■調査対象：平成23年6月30日現在の株主様 8,531名

■回答者数：704名（回答率8.3%）

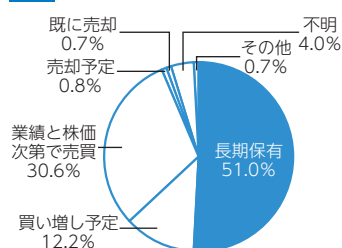
1 当社株式のご購入理由



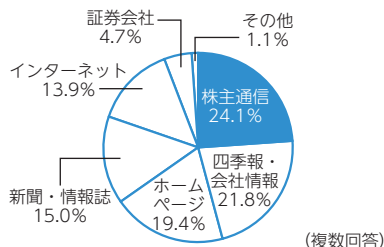
2 保有につながる判断材料



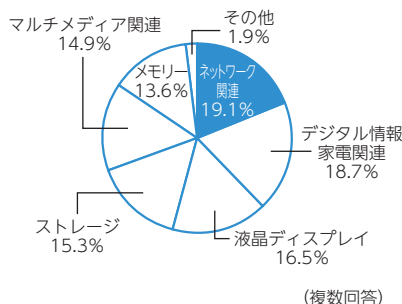
3 当社株式の保有方針



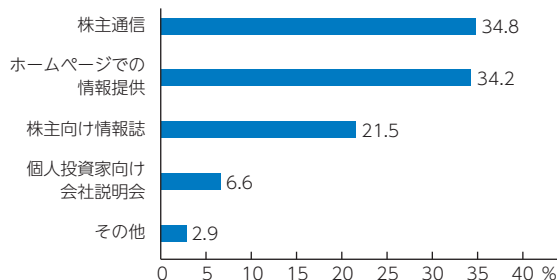
4 当社に関する情報入手手段



5 興味のあるパソコン周辺機器・デジタル家電



6 当社のIR活動について特に充実を希望すること



当社へのご意見・ご要望 (一部抜粋)

製品開発について

- ユーザーの利便性をより一層高めて、よりよい暮らしになるような製品・技術の開発を期待しています。
- 日本のメーカーとして良質な製品を作り続けてください。
- 自社の強みを活かして、時代にあった新製品を開発提供して欲しい。
- スマホ等の影響でパソコン及び周辺機器市場が縮少する中で、より独創的、画期的な製品開発を期待します。

経営・業績について

- 新興市場を含めた収益性の改善および新たな市場開拓を期待。
- 収益力向上に向けて一層の努力をお願いします。
- 安定した配当を出せるような経営を期待しています。
- 安定配当を目指し業績が向上するように頑張ってください。

当社へのご要望・ご提案・激励

- 低価格競争もあり利益の安定が困難になっていますが、オンリーワン企業を目指して頑張ってください。
- 販売促進に力を入れて、広く消費者にブランドが認知されるような施策をうってほしい。
- 震災・円高の影響を乗り越えて、安定した事業活動をしてください。

株主の皆様からのお声をお聞きして

株主の皆様からお寄せいただきました多くの貴重なご意見・ご要望を真摯に受け止め、今後のIR活動をはじめ、様々な活動の充実・改善に取り組み、株主の皆様のご期待に応えられるよう、より一層努力してまいります。

■ 会社の概要 (平成23年12月31日現在)

■ 会社概要

商 号 株式会社アイ・オー・データ機器
I-O DATA DEVICE, INC.
設 立 昭和51年1月10日
資 本 金 35億8,807万円
従業員数 554名 (単体)
587名 (連結)

■ 役 員

代表取締役社長 細 野 昭 雄
専 務 取 締 役 池 田 信 夫
取 締 役 川 田 浩 浩
取 締 役 濱 田 尚 則
◎取 締 役 新 田 義 廣
常 勤 監 査 役 池 田 雅 勝
※監 査 役 水 谷 章 章
※監 査 役 松 木 浩 一
※監 査 役 横 本 篤 篤

(注) 社外取締役には◎印を、社外監査役には※印を付しております。

■ 当企業グループ

関係会社

●子会社

国際艾歐資訊股份有限公司
艾歐資訊横山 (香港) 有限公司
I-O DATA America, Inc.

■関連会社

I-O & YT Pte. Ltd.
株式会社デジオン
クリエイティブ・メディア株式会社

事業所

本 社 (金沢市) 仙 台 営 業 所
営業統括部・ 名 古 屋 営 業 所
システム営業部 (東 京) 広 島 営 業 所
大 阪 営 業 所 福 岡 営 業 所
札 幌 営 業 所

株 主 メ モ

証 券 コー ド	6916
事 業 年 度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月開催
基 準 日	定時株主総会 毎年 6 月30日 期末配当金 毎年 6 月30日 中間配当金 毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
(インターネット) (ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/ retail/service/daiko/index.html
公 告 方 法	電子公告により当社のホームページに 掲載します。(http://www.iodata.jp/) ただし、やむを得ない事由により電子 公告ができない場合は、日本経済新聞 に掲載します。
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場

住所変更、単元未満株式の買取・買増請求等の各種手続きについて

株式に関する手続きやご照会につきましては、株主様の口座のある証券会社にお問い合わせください。
証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である住友信託銀行株式会社へお問い合わせください。

☎ 0120-176-417

(受付時間：土・日・祝祭日を除く9時～17時)

※ご所有の株式が「特別口座」で管理されているものかご不明の場合は、上記住友信託銀行株式会社へお問い合わせください。

デジタルライフの夢を拓ける
株式会社 アイ・オー・データ機器

石川県金沢市桜田町三丁目10番地
URL <http://www.iodata.jp/>

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。